

育てにくい子にはわけがある SEASON 2
～しでかす子にもわけがある～

サロ限定WEBセミナー

サロ内でアーカイブ動画も配信中!

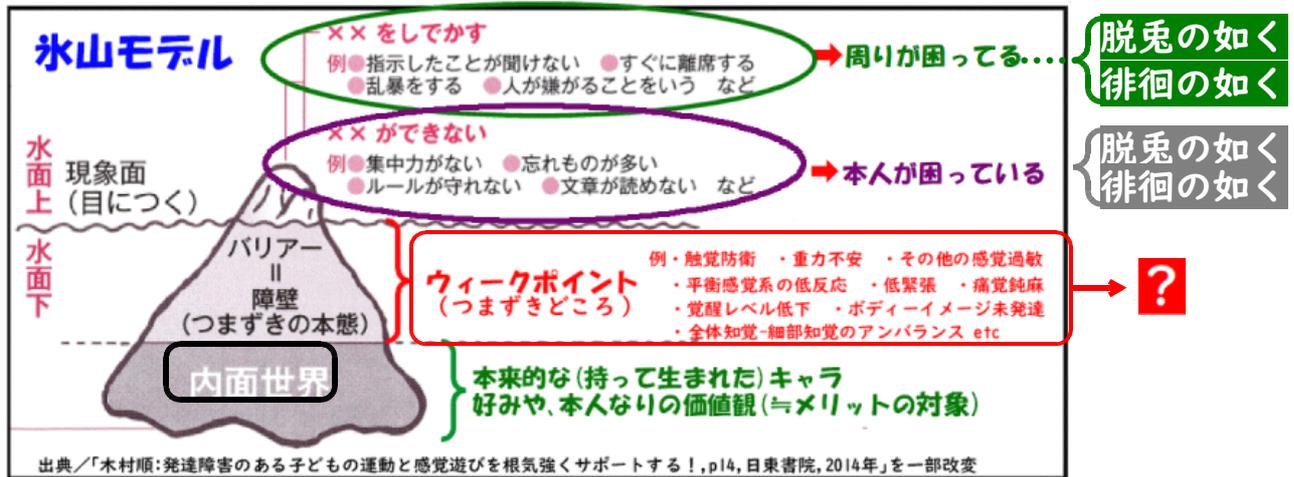
事前申し込みは必要なし!

講師 木村 順

第十回
脱走する子を科学する
～脱走に至る5つの背景～

1/11(火)
21:00-22:20
@ZOOM

第1章：「脱走する」という逸脱行動の分類



◆ **タイプO**：「**確信犯**」～周囲に対する「**悪意や悪ふざけ**」があって脱走する場合
……言うまでもなく、**論外**

◆ **タイプA**：「**環境性**」の問題～「**荒んだ人間関係**」の中で育った子どもの場合
(1)例えば、「DVの家庭」で育ってきたであろう場合
(2)不満や憤りの表現として、ふて腐れる態度を当たり前に見てきた誤学習
……この場合は、**道徳律(≠罰する, ≠飴と鞭)も功を奏するはずだが、**
今回の主題にも関係するが、**“一応”除外**

◆ **タイプB**：「**精神疾患**」が原因で、“**発達**”の枠組みだけでは理解が困難な場合
(1)例えば、「**幻覚**」や「**幻聴**」が出ているための場合
(2)その他、「**妄想**」に囚われており、それに基づく行動である場合
……この場合は、**疾患論(診断基準&症状の発生機序)の学習**が必要
今回の主題に入りたいが、疾患論に踏み込めないで、**“一応”除外**

◆ **タイプC**：「**知的な理解力の遅れ**」に伴う“**適応行動**”の**未発達**(4歳すぎ未満)
(1)「**役割行動**」は未獲得で、所属している集団内での立ち振舞いは自分が中心
～家庭での“**お手伝い**”や、所属集団での“**当番活動**”の意味は分かっていない
(2)「**ルール理解**」も幼く、“**ジャンケンなどの勝ち負け理解**”には達していない
(3)「**行動のシナリオ**」も未発達で、“**明日を見通しての今の判断**”には至らない
……この場合は、**認知発達と自己行動統制力の課題**が中心となる
今回の主題に多くが合致するが、**発達論を押さえての理解が難しい**

◆ **タイプD**：「**発達障害**」の様相が強く出ている場合(1) 診断名がつくほどではないにしても、「**ADHD**」の症状がある

例) { **”不注意”**=短時間で(10分も経たないうちに)課題への注意力が切れてしまう
”多動性”=その場でじっとしていることが苦痛で動き出してしまふ
”衝動性”=意図性は乏しく、行動のフライングとして飛び出してしまう

(2) 診断名がつくほどではないにしても、「**ASD(主としてアスペルガー症候群系)**」の症状がある(3) 診断名がつくほどではないにしても、「**LD(局所性学習症)**」の症状がある(4) 診断名がつくほどではないにしても、「**DCD(発達性協調運動障害)**」の症状がある

今回の主題に合致し、対応策を考えていくべき対象

◆ **タイプE**：「**身体的・生理的要因**」が背景にある場合(1) 「**触覚防衛反応**」を筆頭に各種の「**感覚防衛反応**」～「**聴覚防衛反応**」「**嗅覚過敏**」等(2) 「**覚醒レベルの低下**」に伴う「**行動や情緒(のコントロール機能の低下)、判断力の低下**」

今回の主題に合致し、対応策を考えていくべき対象

■ **第2章**：“**この子**”の「**ストライクゾーン**」を見定めるI：「**脱走する**」という“**問題行動**”の特殊性

→ { **「しでかす」**=周囲が迷惑を被る問題
「出来ない」=本人が辛い未獲得課題 に分類することが難しい

例) K君：小学校時代

- ・ちょっとした時間割の変更や約束事のズレで**不満わめき**：ASD特性
- ・走るのだけは速いが、図工・体育・楽器の演奏は**超不器用**：DCD特性
- ・注意散漫で、わずかな廊下の音でも**集中力が切れていた**：ADHD特性
- ・授業中でも**空想**にふける”ことが多かった：ADHD+低覚性
- ・美術室の絵の具の**臭い**がガマンならなかった(診療所等も)：嗅覚過敏
- ・教室の**ざわめき**や体育館などでの**音の反響**でもイライラ：聴覚防衛

～低学年の頃：音や臭いが耐えられないと、「**脱兎の如く**」教室から飛び出していた
 ；空想にふけりながら、「**徘徊の如く**」教室から出てくことが多かった

→高学年になると……

- ・本人語り～「このままだと大わめきしそう」なときは、**自分から出ていった**

↓
トラブル回避行動※₁ でも、いつも担任には叱られていた／校長先生が(時間のあるときに)話しを聞いてくれた※₂ その後のK君=福祉系の大学を出て、現在は放課後等デイサービスの指導員！→ 本来キャラクターは「**超ジェントルマン(争い事回避)タイプ**」だった様です

Ⅱ：「(客観的な)状態理解」と「(主観的な)本人解釈」という二軸モデル

※1 今年度の第1回目のライブセミナー資料(2021-04-13),pl を参照

※2 図らずも、「教室から脱走」をたとえ話しに説明していますが、まさに”この子”理解の登竜門です

=「原因」と「理由」……By 浜田寿美男(元・花園大学／奈良女子大学教授)

1. 例え話し： **教室から脱走するA君** ~しかし、四六時中動き回っているわけではない

2. **原因**としての解釈

- ・ ADHD(注意欠如多動症)だから、「注意散漫」「衝動性」が強い「多動」になる

※ 知識さえあれば、**第三者の多く**が納得できる説明が「原因」

理由としての解釈

- ・ だって、授業が**面白くない**んだよ、**何の工夫もなくして退屈**
- ・ 生徒のこと、**褒めないし**…
- ・ ボク先生に**嫌われてる**しね

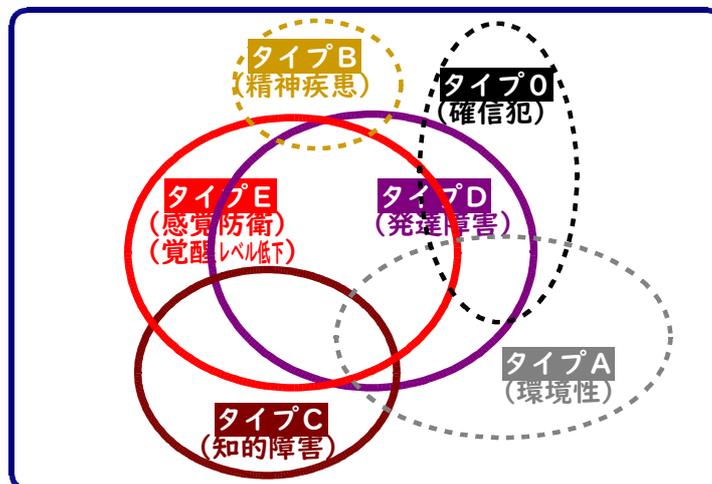
※ **主観的ではあるが、本人にとっては切実な現実であるのが「理由」**



※ 参考文献

【浜田寿美男：第2章・”発達障害”と個体論の視点、関係論の視点、そして状況論の視点、「情動的な人間関係の問題への対応」、金子書房】

Ⅲ：対応策の方向づけ～”複合症状”として現れることが多い



【それぞれのタイプが重複しあうであろう状態の模式図】

1. タイプD(発達障害)

➡「**基礎感覚**」を主軸にしたアプローチだけでも、5～7割程度の改善が見込めること多し

- 1) ASD特性(相手の心情理解が苦手・こだわり・共感覚 etc)への対策としては？
- 2) ADHD特性(不注意・多動性・衝動性 etc)への対策としては？
- 3) LD特性(読み・書き・計算・聴く・話す・推論するの凸凹さ etc)への対策としては？
- 4) DCD特性(姿勢-運動機能の未発達・ボディーイメージの未発達 etc)への対策としては？

例) 小2のIちゃん(通常級)／頑張り屋(できる自分でありたい!)キャラで努力家
口達者なのが玉にキズ(保護者の見解)

- ・ 2年生に進級した当初でも、文字は拾い読みレベル⇒皆の前で音読はしたくない!
- ・ 板書写しも苦手～ノートと黒板に目線を一回ずつ動かすのが疲れる⇒文字を書くのも疲れる
- ・ 上手に読めない&書くのに時間がかかることを、「**努力が足りない**」と担任から責められる

➡授業中いたたまれなくなると、教室から「脱走」していた

【基礎感覚からのアプローチ……まずは、「眼球運動」の発達を第一に置き、平衡感覚を活用】

- ・ 今回は、大好きなTVやビデオを観ながらの「バルンポリン」のみ～毎日15分以上!

➡半年足らずで、音読は”たどたどしさ”は残しながらも、人前で読むことへの自信は回復
板書の問題は、手先の不器用さもあり、こちらは「指先揉み込みタッチ」「手探り課題」を追加

2. **タイプE(感覚防衛&感覚過敏/覚醒レベルの低下)**

⇒「**基礎感覚**」を主軸にしたアプローチだけでも、6～8割程度の改善が見込めること多し

- 1) 触覚防衛反応：軽度から中軽度残っているだけで……情緒の不安定さを引きずりやすい
- 2) 聴覚防衛反応：環境音(高周波音・破裂音・機械音・ざわめき音・泣き声)で情緒的なストレスとなる
- 3) 嗅覚過敏：環境臭(絞った雑巾の臭い・献立の匂い・他者の体臭・美術室や理科の実験室 etc)
- 4) 覚醒レベルの低下状態に陥りやすい

状態像の見極め → 対応策の立案

3. **タイプC(知的障害)**

⇒「**認知**」や「**自己像**」の発達を軸にしたアプローチが必要

～認知のレベルが低いほど、改善にかかる時間も多く必要になる

- 1) 目の前にある物に手を伸ばすことは出来ても、それを舐めて遊ぶ程度(感覚運動水準)
 - ⇒目的の場所に突進することよりも、「徘徊的に動き回る」ことが多い発達レベル
 - ただし、「ピンポイントで目的のところに突進」することもあり
- 2) 穴があればボールを入れたり、袋の中を覗いたあと手を突っ込んで取り出す程度(知覚運動水準)
 - ⇒とりあえず、「行きたい目的の場所」はあるが、まだ「徘徊的な要素」も残る発達レベル
- 3) 繰り返し遊んでいる遊具ならば、形や色を見てはめ込むことができる程度(パターン知覚水準)
 - ⇒行きたい目的の場所には「突進する」ことが頻発し、制止すると大わめきする
- 4) 関わり手(大人)が提示したおもちゃを見て、簡単な指示に合わせて遊び始める頃(対応知覚水準)
 - ⇒行きたい”目的の場所を指差しや声で要求”できることが増え始めるが、「突進」することも残る
- 5) 関わり手(大人)の話しかけや仕草の意図を理解し、簡単なごっこ遊びができる頃(象徴化水準)
 - ⇒いわゆる「脱走」があるとすれば、大人への”からかい”や”イタズラ心”で行なう＝確信犯レベル

状態像の見極め/とりわけ1)～4)の段階のアセスメントが重要 → 対応策の立案

4. その他……

- 1) 「**覚醒レベル**」が低くなっているだけで、状況判断能力の低下と情緒的な不安定さが重なり、本来の認知発達レベルよりも低い「脱走行動」になる
- 2) 「**感覚防衛反応**」を引きずっているだけで、警戒反応に伴う情緒不安定が恒常化してしまい、本来の行動統制能力よりも低い「脱走行動」になる
- 3) 「**ボディイメージ**」が未発達なだけで、「**心理的・精神的な自己像**」の発達も停滞し、本来の行動統制能力よりも混乱した「脱走行動」になる